

チャレンジ！！オープンガバナンス 2021 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題タイトル（注1）	No.	タイトル	自治体名
	22-15-1	若者が楽しみながらチャレンジできる地域づくりの推進	長浜市
チームがつけたアイデア名（注2）（公開）	TRUE ～高校生のやりたいを叶える～		

（注1）地域課題タイトルは、COG2021 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題タイトルを記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	Nexus Biwaichi		
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生		3
メンバー数（公開）	3名		
代表者（公開）	副島拓歩		
メンバー（公開）	市橋新大 服部慎吾		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2021_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2021 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_cog2021@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

（具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>）
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アトバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認 ○

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの理由、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください>

高校生と地域との関りが薄れ、地域づくりに参画する高校生が減っている

<この課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

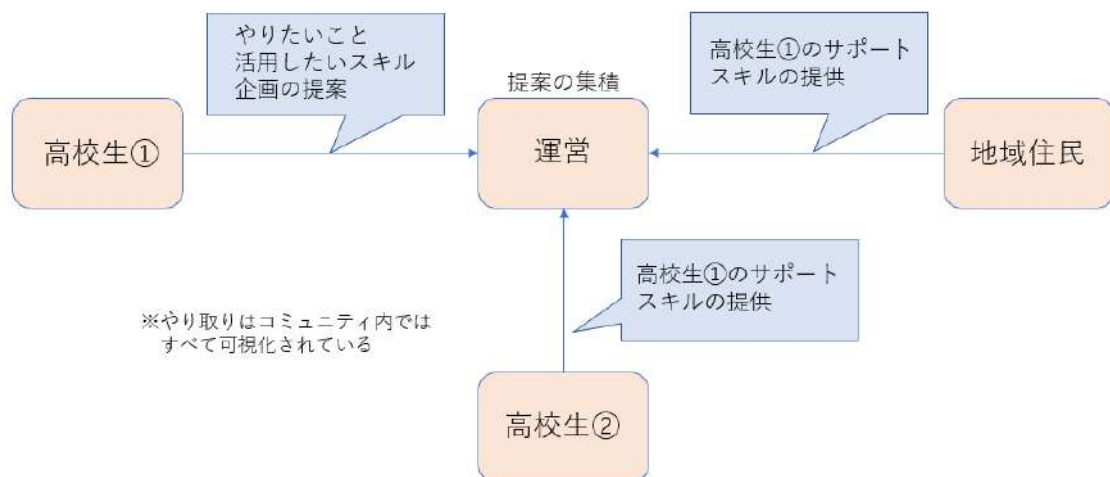
<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です>

本提案は高校生と地域との繋がりをより強固なものにし、地域づくりに興味を持つ高校生を増やすきっかけを作るものである。それは高校生と地域の人々がより密接に関わる機会を増やし、同時に高校生のニーズを満たすことができるプラットフォームだ。

簡単に言うと「何かしたいこと・活かしたいスキルのある高校生」が「それをしたいと思った」ときに「プラットフォームを使って」、「自分たちのやりたいを叶える」ものである。

我々はこのプラットフォームおよびコミュニティを「TRUE」と名付けた。

以下に示すものが TRUE の概略図である。



○運営：オンライン上およびオフラインでの場所の提供や会員の管理、外部の方へのアポイント 市役所と大学生の共同運営を想定

○高校生：高校生①→自分のやりたいこと、活かしたいスキルを提案する

高校生②→高校生①のやりたいをサポート（使えるスキルや場所、人脈があれば提供する）

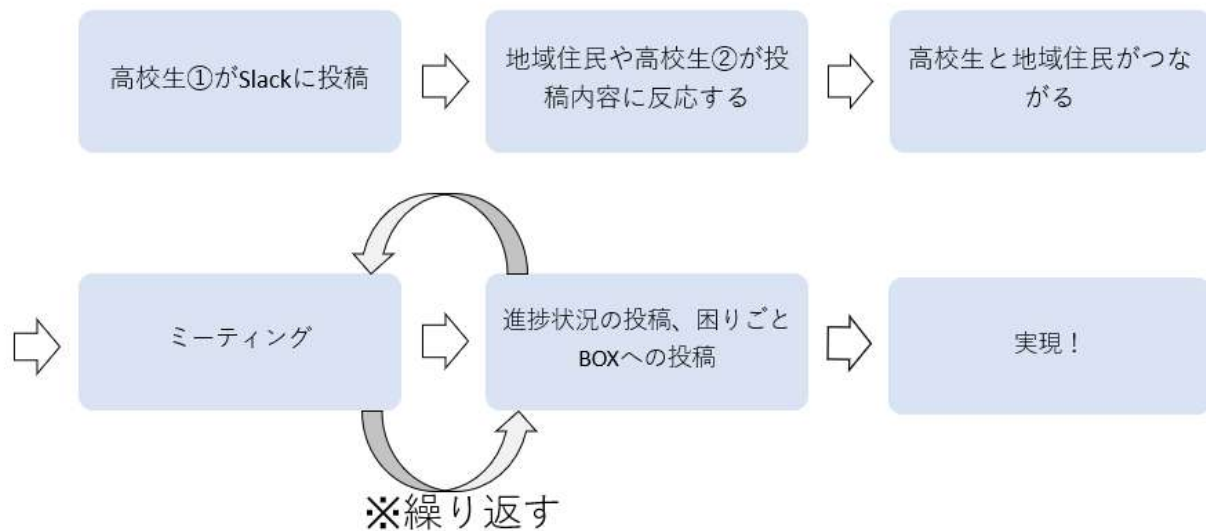
○地域住民：高校生①のやりたいをサポート 場合によっては高校生①のスキルを活用する

上記の登場人物は TRUE の会員である。TRUE に入会することでこのシステムを利用することができるという仕組みだ。オンライン上のやり取りは全てビジネスチャットを使うものとし、今回は Slack での実現を想定する。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

◎アイデア実現までの流れ



◎その他ポイント

- プレイベントの開催
→TRUE 参加数を増やすためのプレイベントを開催する。本コミュニティに興味を持ってもらうと同時に、高校生が潜在的に持っているアイデアを引き出すようなイベントを開催する。
- 定例会の開催
→TRUE に所属する他校の高校生や大人たちと会話を交わすことで、新たな人脈を作ったり、アイデアの種を育てることができる。
- ログを残し、進捗状況を Slack で公開する
→高校生①の提案後、協力者を募り、企画を実現まで持っていき、その企画会議の課程を TRUE 内で公開することで、途中からでも企画に参加しやすくなることができる。
- 困りごと BOX を設ける
→発案や企画段階で課題が見つかった際に困りごと BOX に投稿することで、それを解決する人材と繋がりがやすくし、ブレイクスルーを促すことができる。

◎利点

- 高校生 : ①やりたいを叶えられる
②地域住民がサポートしてくれる
③他の高校生のやりたいをサポートできる
④他校の人、大人との繋がりを持てる
※高校生へのインタビューから大人と話すことが好きな高校生や、得意なことの発表の場を求めている高校生、自分だけでは一歩踏みだせない高校生の存在が見えたため利点と考えた。
- 地域住民 : ①高校生のやりたいをサポートできる
②高校生の得意なことを活用できる
- 地域 : ①高校生が地域に興味を持つようになる
②アクティブな高校生を増やすことに繋がる
③地域づくりに関わるアイデアが生まれる

◎高校生のリーチ方法

1. プラットフォーム自体に興味を持ってもらう
→やりたいことがある高校生や、既に地域課題に興味があるような高校生がターゲット
2. 多くの大人や他校の高校生と実際に会って話せる定例会に興味を持ってもらう
→大人や他校の人との関りを求める高校生がターゲット
3. プレイベントへの参加から興味を持ってもらう
→いきなり TRUE に参加することにはハードルを感じるという高校生への対策
4. SNS での宣伝や活動報告で興味を持ってもらう
→ほとんどのハードルは「知らない」ことから派生するものなので、宣伝を大事にする

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」というアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかを上記のデータを示しつつ書いていきます>

Q.長浜市の現状は？

- 人口減少が見込まれている
 - 平成 27（2015）年に約 11.8 万人であった人口が、30 年後、約 9.2 万人まで 減少（22.2%減）する見込み出典：『長浜市小地域人口推計調査分析』2019 年 3 月 国立大学法人滋賀大学社会連携研究センター → 国立社会保障・人口問題研究所推計（平成 27 年の国勢調査をもとに推計された人口）
- ライフスタイルの変化による多忙化が表面化している
 - 2019 年市民アンケートでは、32.5%が「活動に携わる時間がない」と回答
→市民の課題で第 2 位 出典：令和元年度 長市活委第 52 号 長浜市市民協働のまちづくりアンケート調査

→あらゆる主体が地域作りに参加できる仕組みが必要 出典：長浜市市民協働のまちづくり推進条例

→今回の課題テーマは、「若者」である。本提案では、特に「高校生」を対象にした。

Q.地域づくりへの参加について、長浜の高校生の現状は？

- 地域活動への参加状況は、全体的に見ると活発ではない

選択項目	女性								選択項目	男性							
	10代		20代		30代		40代			10代		20代		30代		40代	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比		
忙しくて時間がない	4	80.0%	5	29.4%	13	48.1%	18	64.3%	忙しくて時間がない	1	14.3%	9	40.9%	11	73.3%	9	64.3%
健康や体力に自信がない	0	0.0%	1	5.9%	5	18.5%	0	0.0%	健康や体力に自信がない	1	14.3%	1	4.5%	2	13.3%	2	14.3%
経済的な余裕がない	0	0.0%	1	5.9%	3	11.1%	3	10.7%	経済的な余裕がない	0	0.0%	3	13.6%	4	26.7%	3	21.4%
参加するほどの知識や技術がない	1	20.0%	5	29.4%	7	25.9%	8	28.6%	参加するほどの知識や技術がない	0	0.0%	3	13.6%	0	0.0%	4	28.6%
きっかけがつかめない	1	20.0%	5	29.4%	6	22.2%	8	28.6%	きっかけがつかめない	2	28.6%	5	22.7%	3	20.0%	5	35.7%
家族の理解や協力が得られない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	家族の理解や協力が得られない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
人間関係が大変そう	0	0.0%	2	11.8%	7	25.9%	6	21.4%	人間関係が大変そう	0	0.0%	2	9.1%	6	40.0%	2	14.3%
身近に一緒に活動する仲間がない	1	20.0%	9	52.0%	9	33.3%	3	10.7%	身近に一緒に活動する仲間がない	0	0.0%	5	22.7%	4	26.7%	0	0.0%
活動に伴う責任が重荷になりそう	0	0.0%	3	17.6%	3	11.1%	4	14.3%	活動に伴う責任が重荷になりそう	0	0.0%	3	13.6%	2	13.3%	0	0.0%
活動している場所が遠い、交通が不便な場所にある	0	0.0%	0	0.0%	1	3.7%	2	7.1%	活動している場所が遠い、交通が不便な場所にある	0	0.0%	1	4.5%	0	0.0%	0	0.0%
活動団体や活動に対する情報がない、内容がわからない	0	0.0%	6	35.3%	6	22.2%	3	10.7%	活動団体や活動に対する情報がない、内容がわからない	2	28.6%	8	36.4%	3	20.0%	3	21.4%
興味・関心がない	1	20.0%	7	41.2%	8	29.6%	6	21.4%	興味・関心がない	3	42.9%	12	54.5%	4	26.7%	5	35.7%
その他	0	0.0%	1	5.9%	1	3.7%	0	0.0%	その他	0	0.0%	0	0.0%	2	13.3%	0	0.0%

出典：令和元年度 長市活委第 52 号 長浜市市民協働のまちづくりアンケート調査

- アンケート結果のうち、10代が多く選んだ項目
 - 関心、興味が薄い・・・20.0%
 - 忙しい・・・80.0%
 - 身近に一緒に参加する仲間が居ない・・・20.0%

Q.現在、高校生が抱えている課題観は？

1. 大人と話をしたい

(高校生へのインタビュー結果から抜粋)

- 大人の人と話すのは割と好き。同年代とは遊ぶのが面白いけど、大人の人はお話自体が面白い。海外経験の話聞いたことが印象に残っている。
- 看護師になりたいという目標があるが、興味の対象に関する人と関わるだけでは視野を限定してしまう。色々な大人と関わり、キャリアのはなしを聞きたい。

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

- 自分の進路選択に関わることを、大学生と話してみたいと思う。大学の雰囲気とかを知る機会が欲しいと感じている。

2. 意外と発揮できる、発揮したい能力を持っている学生が存在する
- 特に、文化系の部活、文化祭で有志で発表するような集団は、自分達のスキルを発揮する場を求めている。その場を提供できるような人を探している。

(元放送部員へのインタビューから抜粋)

- 校内集会の司会の仕事や、地域のイベントの司会を任されることを心待ちにしていた。一方で、地域の広報動画制作等をしてみたかったという心残りがある。

(高校生へのインタビューから抜粋)

- 長浜北、虎姫高校(長浜市内の公立高校)では、文化祭が盛んな学校のように、有志発表を行う人も多くいる。

3. アクティブで、何か活動をしたいが一步踏み出せない高校生がいる

(高校生へのインタビューから抜粋)

- 長浜市主催の、Challenge & Creation に参加したことで、地域に興味を持つようになった。生徒会に所属していたので、生徒会サミットという形で意見を交換できたりすれば自分の知らない世界を知れて、もっと成長できるのではと思った。しかし、そのような機会の存在を知らないので、実際に活動に参加することはできていない。

◎その他に高校生へのインタビューから分かったこと

- ◆ パソコン又はタブレット端末の所有率が想像以上に多いこと
 - Slack等のオンライン媒体を使ってもさほど支障はないと考えられる。
→活動にオンラインを取り入れたりすることも可能。
- ◆ 興味のあることならとことんできるという人が多くいたということ

(高校生へのインタビューから抜粋)

- 映像授業や勉強用の動画を見るために、自分が自由に使えるタブレットを、ほとんどの子が持っている。
- 自主的に調べる「総合的な学習の時間」では、IT・情報系の題材を選ぶ人が多くて、人気だった。
- 歴史が好きで、調べ始めるととことん深掘りしてしまう。

⇒ 本アイデアでは、興味のあるプロジェクトを自分で生み出せるという点が、興味のあることを追及したい人のニーズと合致すると考えられる。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

＜アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまづ＞

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

【必要な資源】

ヒト	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域住民 <ul style="list-style-type: none"> ○ 高校生のやりたいをサポートしたい ○ 長浜市の将来の為、若者に投資したい ○ 高校生にはできないスキルを持つ ● 運営 <ul style="list-style-type: none"> ○ 大学生 <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生のやりたいをサポートしたい ・ 長浜市の将来のため、若者に投資したい
モノ	<ul style="list-style-type: none"> ● ミーティング及び定例会開催場所 ● Slack 等のビジネスチャット
カネ	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設利用費 ● プロモーション費用

【高校生へのプロモーションについて】

	高校生が TRUE を認知する (Attention)	SNSを確認する (Interest)	入会意欲を醸成する (interest/Desire)	入会すべく個別で連絡をとる (Desire/Memory)
実際に設置する接点	<ul style="list-style-type: none"> ・市内県立高校にビラを配る ・生徒会、文化部担当の先生経由での宣伝 ・長浜市の行政イベント参加者 LINE グループからの宣伝 	<ul style="list-style-type: none"> ・Twitter ・YouTube ・note 	<ul style="list-style-type: none"> ・定例会 ・イベント 	<ul style="list-style-type: none"> ・順次、希望者のみ個別相談 (LINE、メール等)
どんな情報を求めているか	<ul style="list-style-type: none"> ・能力を発揮する場所がない ・大人や大学生と話してみたい ・進路に関して有益な情報の取得方法を見つけたい ・実行したいプロジェクトがあるが、阻害要因があるため、動き出すきっかけが欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・TRUE が実際どういう団体なのか ・どんなことが経験できるのか ・参加している高校生、地域の方のレベル 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が楽しめるかどうか ・TRUE がどうしているのか ・どう高校生、地域住民が所属しているのか ・高校生の先輩の成長経験 ・より具体的な活動内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・忙しさ、費用など ・保護者と相談して生まれた不安の解消
新入生に与える情報	<ul style="list-style-type: none"> ・TRUE という団体の存在 ・普段の活動、リソース ・より詳しい SNS の情報 	<ul style="list-style-type: none"> ・TRUE の具体的な活動内容(活動予定) ・メンバー紹介 ・直近の定例会開催予定 ・直近のイベントの開催予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な活動内容 ※このフェーズではインプットよりアウトプットを多めにしたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・疑問に対する、ありのままの事実
情報や経験に対しての思考と感情	<ul style="list-style-type: none"> ・結局何をしているのかわからない 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分ができることが具体的にわからない 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の活動を自分がしていくにあたっての漠然としたイメージ構築 ・TRUE でやりたいことが分かる ・自分のロールモデルが見つかる 	<ul style="list-style-type: none"> ・安心

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

	高校生が TRUE を認知する (Attention)	SNS を確認する (Interest)	入会意欲を醸成する (interest/Desire)	入会すべく個別で連絡をとる (Desire/Memory)
次のカスタマーフロー(右列)に進むために新入生が起こす行動	・SNS のアカウントをフォローする	・SNS のアカウントをフォローする	・実際に、入会するとして、何が障壁になるのか、自分の親と相談して明確にする	・積極的に交流する
次の行動をするにあたって障壁になること	・わざわざ QR コードで調べるのが面倒 ・学校でスマホが使えないから、家に帰ってからみようとんでも、時間が経つと興味が薄れてしまう。 ・なんか難しそう	・リード獲得までのフェーズでの情報で興味がそそられないこと ・実際に体験するコンテンツに参加すること	・時間が経ち、熱が冷めてしまう ・体験会のレベルが高く、それだけで満足してしまう	
次の行動を起こすにあたっての新入生のニーズ（障壁を解決するために必要なこと）	・どんな活動をしている団体なのか ・どんなサポートを受けられるのだろうか ・どんな地域住民の方がいるのだろうか ・高いレベルを求められているのではないだろうか ・自由かどうか ・QR コードを思わず読み取ってしまうような文言の追加	・過去に開催された体験コンテンツの写真や内容を SNS から簡単に確認できるようにする ・できるだけ楽しそうな写真を投稿する	・強制しない範囲でコミュニティ参加者と個人的に SNS などに関係を作ってもらおう ・入会に関する情報をイベント終了後すぐに渡す	

【今後の実現までのプロセス】

実施時期	実施期間	内容
2021/12~2022/1 中旬	1 か月程度	アイデアのブラッシュアップ
2022/1 下旬		長浜市役所の方の前でプレゼンし、フィードバックをもらう
2022/2~2022/2 中旬	1 か月程度	長浜市まちづくりセンターの方と調整 (常設場所、高校生とのミーティング場所、定例会などの開催場所、ピア代などの確保について)
2022/3 中旬~2022/4 月上旬	半月程度	長浜市地域づくり協議会の方と調整 (六荘、浅井湯田、虎姫 地域連携協議会の方に、支援について相談)
2022/4 下旬	3 日程度	プロトタイプテスト①（プロモーション施策について） プレイベントを開催し、プロモーション施策が機能するかどうかの確認 各接点との CVR(コンバージョン率)を検証する
2022/5 月上旬	5 日程度	プロトタイプテスト②（長浜北高校生徒会と調整中） 実際に、実働する際に必要なシステム、リソースが十分かどうかの確認
2022/5 下旬		TRUE の運営開始に向け、長浜市役所の方の前でプレゼンし、フィードバックをもらう
2022/6~		アイデアを練り直し、実働

